

米国雇用市場に安定化の兆候？

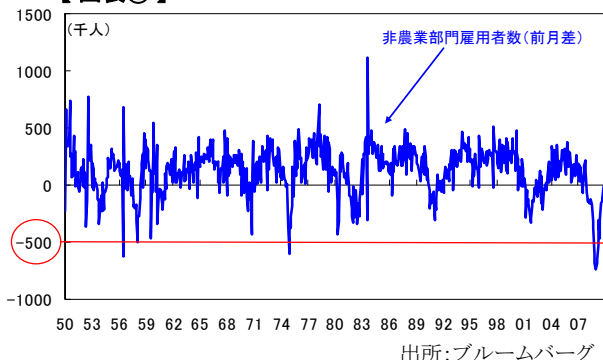
✓ 雇用市場は安定化に向かい、最悪期は脱した模様であるが、それは新規雇用を伴う本格的な回復には見えない。

12月4日に発表された、11月の米国の非農業部門雇用者数は、市場の予想を大幅に上回る改善を示しました。過去を見ると、約50万人近傍まで雇用者数が減少した地点が反転への分岐点となっています(図表①参照)。これは雇用削減の対象となる母数である雇用者数がそもそも限界的に少なくなってきたからかもしれません。これに対し、バーナンキFRB(米連邦準備制度理事会)議長は7日に「雇用市場は脆弱だ」とコメントし、楽観論に警鐘を鳴らしました。

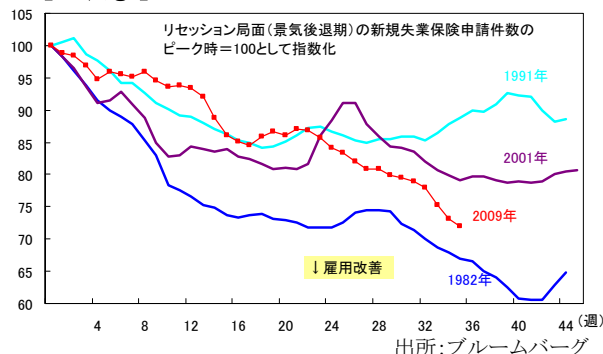
米国経済が本格的に回復するためには、雇用の伸びが回復しGDPの約7割を占める個人消費が活発化し、これを支える労働所得(※)を創出することが不可欠です。その意味で、雇用市場の先行指標である新規失業保険申請件数の動向を見ることは重要です。過去の景気後退局面における同指数のピークを100として指数化し、その後の推移を見ると、現在の雇用改善ペースは1982年時点のそれに類似しており雇用安定・景気回復の道程を緩やかに歩んでいるように見えます(図表②参照)。

※労働所得：労働の対価として得られる賃金・報酬等を指す。

【図表①】

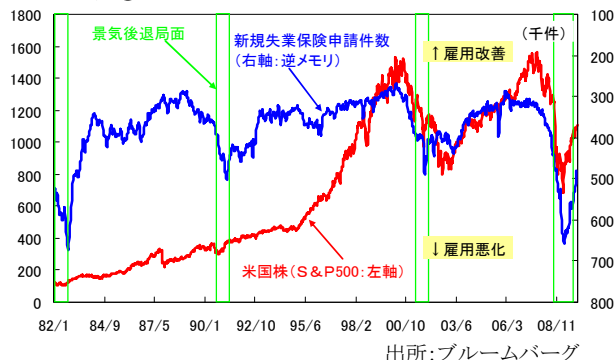


【図表②】

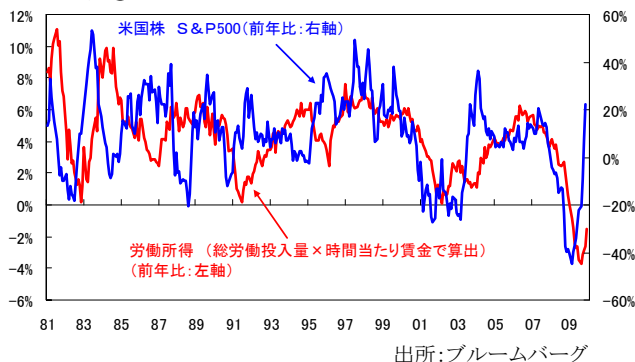


景気後退局面では新規失業保険申請件数と米国株は連動性高く推移しているようです。今回の景気後退局面でも新規失業保険申請件数の減少に歩調を合わせ株価が上昇しています(図表③参照)。今後も株価が上昇してゆくかどうかの一つの分岐点は、雇用の改善傾向が続き個人消費が活発化しこれを支える労働所得が改善するかどうかです。足元は総労働投入時間の上昇や時間当たり賃金の改善もあり労働所得は底打ちしたようにも見えます。今後もこの傾向が継続すれば株価や米国経済は支持されるでしょう(図表④参照)。

【図表③】

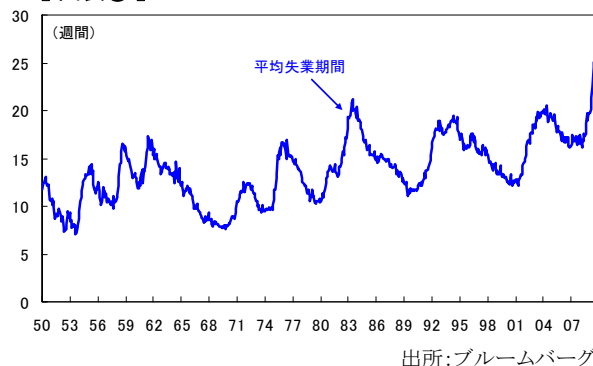


【図表④】



冒頭の図表①の説明で述べた通り、今回の景気減速局面では雇用削減の対象となる母数である雇用者数がそもそも限界的に少なくなってきたのかかもしれません。だから雇用が改善したのかかもしれません。しかし、今後、重要なのは、雇用の新規創出が回復するかどうかです。平均失業期間は史上最高に達し、長期失業者が増加している現状を見ると雇用の新規創出力が依然、脆弱であることを示唆しているようです(図表⑤参照)。

【図表⑤】



ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

